

第2回 国会の歴史と可能性

議 会 っ て な ん だ ろ う

神戸女学院大学教授 石川康宏



議会について、歴史の中でそのしくみと役割の変化、可能性を学ぶ連載。第2回は、国会を求めたのはどんな人々だったのか、国会にはどんな可能性があるのかを考えます。(2回連載)

君主制を倒したブルジョア革命をきっかけに

みなさん、こんにちは。今回は国会がいつから政治に反映させる国会へ政治を変えます。それだけ、その転換は容易でなく、最初にそれが始まったヨーロッパでは、17世紀のイギリス革命(清教徒革命、名譽革命)や18世紀のフランス大革命から、男女共通の普通選挙が一般化する20世紀までの長い時間が必要でした。ブルジョア革命は、国王や貴族、特権的な聖職者等が支配した世の社会的な身分としての「市民」、さらには近代の資本家などを意味するブルジョア革命は、そのような「市民」としての商工業者が、多くの農民や労働者とも力を持つことを強く警戒しました。ブルジョアにとって、労働者らは経済的な支配の相手だったからです。そこでブルジョア革命の民主主義のスローガンは、多くの場合、ブルジョアの経済活動の自由にとどまり、労働者たちの自由や権利を拡大するものになりませんでした。



▲革命前の不平等なフランス社会を風刺した絵。平民が貴族と聖職者を背負っている

命は「市民革命」とも呼ばれます。この政治革命の根本的推進力となったのは、中世社会の中で資本主義経済の発展でした。次第に強い経済力を持つようになった商工業者(資本家)は、自分たちの経済活動をより自由なものとするために、邪魔になっ

た君主制の政治を打ち倒そうとします。それがこの革命の内実です。根底には、中世の封建制社会から資本主義社会へとこの歴史の段階的な前進があったのです。

この革命の中でブルジョアたちは、中世社会の身分制を批判して「自由・平等・博愛」など民主主義の旗印を掲げました。ブルジョア革命は、ブルジョア革命を「ブルジョア革命(労働者)の革命」として認め、その結果「自由・平等・博愛」を社会の隅々に徹底させ、「すべての国民の意思が」

本当の国民民主権は労働者たちの手で

しかし、ブルジョアたちは、資本主義社会の中で労働者や農民が大きな力を持つことを強く警戒しました。ブルジョアにとって、労働者らは経済的な支配の相手だったからです。そこでブルジョア革命の民主主義のスローガンは、多くの場合、ブルジョアの経済活動の自由にとどまり、労働者たちの自由や権利を拡大するものになりませんでした。

労働者解放の運動における国会の位置づけ

1848年、フランスでは21才以上の全男性に選挙権が与えられます。しかし、同じ年齢の全女性にそれが与えられたのは1945年のことでした。民主主義のスローガンを他のどの国よりも高く掲げたフランスでさえ、男性優位の思想はそれほどまでに根深いものでした。その同じ1848年に、男女の別なく21才以上の全ドイツ国民に選挙権を与え、また身分の制約なしに労働者も国会議員になれる権利を求めてたたかっていたのが、カール・マルクスらドイツの共産主義者(資本主義の苦難から労働者を解放するために、共産主義という新しい社会を目指した人々)たちでした。それは歴史的に、きわめて先駆的なたたかひでした。

主権が残ります。それでも労働組合をつくり、今日の労働基準法にあたる工場法を議会につくらせる力を持った19世紀の労働者たちの運動は、次第に選挙権をもその手に獲得します。

1832年の選挙法改正まで、国会議員選挙の有権者は貴族と地主に限られました(全人口の3%)。32年の改正でここに都市の資本家と農村の富裕な農民が加わります(46%)。そして67年には、都市の労働者(9%)、84年には農業労働者や鉱業労働者が加わり(19%)、さらに1918年には21才以上の全男性、31才以上の全女性、1928年には男女とも21才以上の全成人に選挙権は広がりました。

これは、人間の権利に、人種や性別、貧富や出身地など、いかなる理由でも格差をつけてはいけないという平等と人権の思想を、社会が次第に深く身につけていく過程でもありました。

Twitter やっています。チェック＆フォローお願いします！ @shinnihoninfo www.shinnihon-net.co.jp

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-60 税込価格 03-3423-8402 FAX03-3423-8419 送料200円

新日本出版社の最新刊

好評発売中 原発の深層 利権と従属の構造 赤旗編集局 著 定価1290円/四六判 ISBN9784140605563

好評発売中 ハロランの東京大空襲 B29捕虜の消せない記憶 早乙女勝元 著 定価1470円/小B6判上製 ISBN9784140605568

好評発売中 革命家マルクスとイエニー 土屋保男 著 定価1980円/四六判 ISBN9784140605564

好評発売中 『資本論』はどのようにして形成されたか マルクスによる経済学変革の道程をたどる 不破哲二 著 定価2100円/四六判上製 ISBN9784140605545

好評発売中 原発にしがみつく人びとの群れ 原発利益共同体の秘密に迫る 小松公生 著 定価780円/四六判 ISBN9784140605538

好評発売中 辺境を旅ゆけば 日本が見えた 伊藤千尋 著 定価1470円/四六判 ISBN9784140605544

知る学



▲選挙権の拡大を求めたイギリスのチャーティスト運動

その後、フランスでは弾圧によって労働者の運動が停滞します。またイギリスには、まともな労働者政党が生まれませんでした。その中でドイツに変化が起こります。ドイツ全体の支配をめぐるオーストリアとのたたかいは、プロイセンの首相ビスマルクが、民衆の支持を得るために、オーストリアを除く北ドイツ連邦議会の設立を約束したのです。戦争に勝利したプロイセンは、実際にも67年に連邦議会選挙を行いました(選挙権は全成人男性)、それを71年からのドイツ帝国議会にも引き継ぎました。

ここで画期的な事態が起こります。67年の選挙で労働者政党の形成途上にあつたアイゼンハ派から(マルクスの影響が強いグループでした)、ヘーベルとリープクネヒトというトップの指導者を含み4人の議員が誕生したのです。それは歴史上初めての出来事でした。しかし、そこにはいくつかの混乱も生まれませんでした。

たとえばリープクネヒトは、ドイツ連邦議会での労働者の要求を取り上げることには反対しませんが、要求を受け入れられれば、労働者の弾圧を平然と行うビスマルクが、労働者の味方だと思われちゃうというものがその理由でした。

また、1864年から72年まで活動した国際労働者協会(インタナショナル)で、マルクスは大きな役割を果たしましたが、そこにはさまざまな潮流の労働者が加わっており、なかには政治から手を引けというバックニン派のようなグループもありました。国家こそ諸悪の根源であり、国家をなくすために政治活動から手を引けというのが、その主張でした。

資本主義を乗り越えたい、労働者の解放を目指す革命運動での国会や選挙の位置づけは、それ自体が重要な論争点だったのです。マルクスはエンゲルスと協力して、これらの議論を正していきました。

後にエンゲルスは、ドイツのような権限の小さな国会でも(当時のドイツは、皇帝が政府を任命し、政府が法律をつくる仕組みになっており、国民にはほとんど権限がありませんでした)、選挙のたびに味方の数が確保される、選挙で公然と国民に語りかけられる、国会という公的な場で意見を告発し政治を進むべき方向を示すことができると、その意義をまとめました。エンゲルスが亡くなった3年後の98年の選挙で、ドイツの労働者政党は210万7100票を得て、56の議席を獲得するまでに成長して

20世紀以後の歴史の発展と私たちの課題

その後、ドイツの党は1912年に110議席を得て、ついに国会最大の政党となります。しかし、残念ながら、その政治路線はマルクスらの見解を大きく離れ、植民地争奪を目的とした第一次大戦に賛成票を投ずるまでに变质してしまいました。

歴史のこの瞬間にマルクスの精神を継いだのはロシアのレーニンでしたが、国会の位置づけという点では、レーニンも『国家と革命』という本で、議会は労働者を支配する道具だから粉砕せよ、権力を手に入れるまで労働者政党は多数を味方にするにはできないと主張します。晩年、レーニンはこれを是正していきますが、粉砕論の影響は後に強く残るようになります。スターリン、毛沢東、ゲバラなどがその代表です。

しかし、その間にも、

マルクスらの理論的、実践的な探求の到達は、国会をめぐるたたかいが、未来社会の実現に向けた多数者の合意をつくる重要な準備となるという点を核心とするものでした。それは、労働者の解放を目指すたたかいが、真の国民主権を求めると、完全に重なり合うことを示すものでした。

そこで大きな意義をもったのは、日本共産党の「人民的議会主義」の路線です。それは国会でのたたかいを否定した、スターリンや毛沢東らによる干渉とのたたかい(1

先で紹介したエンゲルスのまとめは、主に(1)と(2)の枠に収まります。(3)はマルクスらが探求した方向性を、日本社会の新しい段階に応じて

以上のような、国会をめぐる長い歴史を振り返るなら、野田内閣がたくらむ議員定数の削減や、橋下大阪市長による「政治に必要なのは独裁だ」といった主張が、社会発展の歴史にいかん反しているかは明らかです。しかし、財界団体に集まった大ブルジョア(独占資本)やその代弁者である政治家たちは、マスコミや教育(その制度改悪も)をフルに活用して、この逆流を現実のものとする努力を行っています。

私たちはこれを軽視せず、民主的な政治の大前提となる国民主権の大切さを、何より国民多数の共通認識としていかねばなりません。そのとりくみの成功には、多くの人を説得する言論の力が必要であり、それには学習が不可欠です。若いみなさんが「知る力」に、このとりくみでも大きな役割を果たされることを心から期待しています。

アメリカからの自立と相互の連帯に向かう中南米

- 米州ポリバル同盟 (ALBA) 加盟国
2004年につくられた地域グループ。市場優先の競争原理ではなく、相互支援と協力、連帯の精神で協同を進める。
- 南米諸国連合 (UNASUR) 加盟国
2008年につくられた地域協力機構。政治的対話の強化、貧困や非識字の撲滅、国際社会への参加促進などを目的とする。
- 上記の両方に加盟する国
2011年、33の独立国すべてが参加する「中南米カリブ海諸国共同体」(CELAC)が設立。米国追随を拒否し、平和・公正・自主的な共同を目指す。

950~60年代)を踏まえてのものでした。日本共産党は1970年に国会活動を次のように定式化します。

「国会は(1)たんに政治の実態を人民の前にあきらかにするだけでなく、(2)国民のための改良の実現をはじめ、国民の要求を国政に反映させる闘争の舞台として重要な役割をはたす。(3)さらに、今日の日本の政治制度のもとでは、国会の多数の獲得を基礎にして、民主的政府を合法的に樹立できる可能性がある(カッコ数字は石川)

以上のような、国会をめぐる長い歴史を振り返るなら、野田内閣がたくらむ議員定数の削減や、橋下大阪市長による「政治に必要なのは独裁だ」といった主張が、社会発展の歴史にいかん反しているかは明らかです。しかし、財界団体に集まった大ブルジョア(独占資本)やその代弁者である政治家たちは、マスコミや教育(その制度改悪も)をフルに活用して、この逆流を現実のものとする努力を行っています。

私たちはこれを軽視せず、民主的な政治の大前提となる国民主権の大切さを、何より国民多数の共通認識としていかねばなりません。そのとりくみの成功には、多くの人を説得する言論の力が必要であり、それには学習が不可欠です。若いみなさんが「知る力」に、このとりくみでも大きな役割を果たされることを心から期待しています。

すよこつと

今、携帯のメールの打ち方をやっと覚えた感じです。スマケーにしたんですが、ポケベル入力がなく、メールも打つのが今までと違うので、手間取っています。(群馬 fanfare)